ECONOMYAN

エ・コ・ノ・ミ・ア・ン

上智大学経済学部同窓会会報 VOL.21

●発行日／平成13年10月1日 ●発行／経鷲会 千代田区紀尾井町7-1 上智ソフィア会内 ●発行責任者／三木眞弘（46経経） ●編集／広報委員会 ●印刷／株式会社小薬印刷所

平成13年度代議員会、定時総会開催のご案内

総務委員長
八木 達郎（S49経・営）

本年も経鷲会代議員会、定時総会を下記の通り開催いたします。会員相互のネットワークづくりやみなさまの旧交を暖める絶好の機会になりますよう、事務局ボランティアーも一生懸命に準備いたしております。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

代議員会 1.日時 平成13年10月10日（水）18：30～
2.場所 ソフィアンズ・クラブ
3.議題 予算決算、事業報告・事業計画、その他
当日は議事終了次第、経鷲会サロンに切り替わります。

定時総会 1.日時 平成13年11月17日（土）14：00～
2.場所 6号館310教室
3.議題 予算決算、事業報告・事業計画、その他
4.記念講演会 14：30～16：00
講師：前防衛庁長官 齋藤斗志二氏（S43経商） ―交渉中―
演題：「二十一世紀の日本～いま、われわれは何をなすべきか」
5.懇親会 16：00～18：00
場所 上智会館4階～第4会議室

現役学生とOBとの交流会（就職勉強会）

経鷲会実行委員長
小国 敏雄（S53経・営）

◎日時：平成13年11月1日（木）18：00～
◎場所：ソフィアンズ・クラブ
当日はソフィア祭の初日であり、多数の学生が参加する予定です。先輩がたのご協力をお願い致します。

お知らせ

(1) 今回の号では、9,400人のみなさんに本誌をお送りする郵送代を節約するため、ケーブル＆ワイヤレスIDCにスポンサーをお願いしました。同社のDMを封入することで相当額の協賛をいただいております。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。
(2) みなさんの「投稿」「寄稿」を歓迎します。内容は個人的な消息、PRなど、なんでも。なるべく800～1,000字程度
あて先：経鷲会事務局（東京都千代田区紀尾井町7-1、上智ソフィア会内）

タクシーの中に忘れたグリーンカード ～ニューヨーク生活12年の一こま

ニューヨーク、モリソン法律事務所
山崎 友宏（S36経・経）
Director, Japanese Affairs

一年に数回パニック状態に陥ることがある。時計とにらめっこして次のスケデュールのことを考えていると、他の全てを忘れてしまうという悪い癖がある。数々の失策、失敗の中から、そのハイライトシーンを一つ語りたい。

3年前、マンハッタンは、ブロードウェイのど真ん中でタクシーの中に財布を忘れてしまった。黒人運転手に料金とチップを払うと、財布を後部座席に置いたままドアーを閉めた途端、タクシーは発進してしまった。日曜日のお昼、ブロードウェイは人と車の洪水であった。100ドルばかりの現金よりもっともっと大事な貴重品が財布の中にあった。

一番の貴重品は、米国永住権を証明するグリーンカード。これがないと、2週間後に迫った日本出張で米国から出国できなくなってしまう。次は、自動車の免許証。マイカーを運転できず、自宅軟禁されたも同然となってしまう。最後にクレディットカード類。財布の置き忘れに気ずいた時は呆然自失。米国生活での最大の失策という深い挫折感が脳裏をかすめたが、発進したタクシーを追いかけることにした。

ブロードウェイのど真ん中を車の洪水をかきわけながら、Wait、Wait と叫びながら血相を変えてタクシーを追いかける日本人。約50メータは走ったと思う。本人にとっては、壊滅的な悲劇。他人の目から見れば喜劇であった。この時ほど、悲劇が喜劇になることを実感したことはない。
この日は天が味方してくれたらしい。交差点の信号が赤になり、目標のタクシーが止まった。黒人運転手さんはバックミラーで僕の追跡を確認した。彼は、You are a lucky guy と言って、財布を渡してくれた。財布を受け取った瞬間，自然に Thank you God という言葉が口から何度も出てきた。紙面の都合で今日は一つしか失敗談をお話できない。

知的所有権を専門とする米国法律事務所に勤務し、アメリカン プラグマティズム の世界に日々どっぷり浸かっているが、アメリカ人の社会には未来への限りないオプティミズムもある。米景気の後退でレイオフされた人の多くは，あっけらかんとしており、まずは休暇を取って、次の挑戦を目指す人も多い。当方もこれにあやかり、オプティミズムの源流である南米は，ブラジル，アルゼンチンを訪ね、リオデ ジャネイロでサンバの踊りに興じ、壮大なイグアスの滝のあふれ出る膨大な水量の滝にボートで3度突入（写真はその時のもの）、気分爽快となってニューヨークに戻ってきた。人生は「渡りに船」。「失敗は成功の基」であると信じている。

幸い職業上の大きなミスはなかったことを一言したい。アメリカ人は小さなミスにとても寛容で許してくれる。日本人は小さなミスにとてもうるさく、非寛容。仕事柄、大きなミスは米国では訴訟事件になる。

トーマス・モリソンとの出会い

1970年代後半、私は東京の特許事務所でかなりの数の米国特許出願を担当していた。確か真夏の8月頃と思う。トーマス・モリソンがひょっこり事務所をたずねてきた。事務所の所長と私は、すぐさま「あなたはフランク・シナトラにそっくりだ」と伝え、談笑した。

その夜、彼をフランス料理の一流レストランに招き、ステーキを食べて意気投合した。彼はこれからファーストネームのTomと呼んで欲しいという。以来、トムに米国特許出願を次々と依頼した。1980年にはニューヨークの彼の事務所を訪ね、かれの自家用小型飛行機ビーチクラフトでワシントンに飛び、米国審査官とのインタビューに出席した。

1980年代後半、独立したばかりのトム・モリソンは日本人の特許実務者を採用して日本の業務を拡大したいという強い意向を持っていた。一方、私もこの道にはまりこんだ以上、アメリカでみっちり武者修行してみたいという夢をもっていた。こうしてお互いの息がぴったり投合し、1989年11月から、私はニューヨークのモリソン法律事務所日本部で仕事を開始した。1996年には米国永住権を取得した。

今後のエグゼクティブ市場の展望

東京エグゼクティブ・サーチ株式会社
取締役社長
加藤　春一（S43経・経）

日本経済はオールドエコノミーからニューエコノミーへのパラダイムシフトの真っ只中にある。この大変革の中でエグゼクティブの人材市場も大きな変革を迎えている。パラダイムシフトの変化の中で以下10のトレンドがあげられる。

1. 社会形態：帰属社会型（学歴主義、年功賃金、終身雇用）から契約社会型（キャリア、スキル、コンピテンシー）へ
2. 雇用関係：垂直型関係から水平型関係へ～一企業と対等の関係
3. 個人の就業観：就社選択意識から就職選択意識へ
4. 組織デザインと個の役割り：全体組織から個人（プレイイングマネージャー）の役割り増大へ
5. 就労形態：固定費重視型から変動費重視型へ
6. 採用の基準：外見（過去のスキル～学歴・職歴）から中身（現在のスキル）へ
7. 教育形態：指示命令型から自己選択型
8. 配置形式：横移動（ゼネラリスト型）から縦移動（スペシャリスト型）へ
9. 評価基準：組織中心（プロセス型）から個中心（成果主義型）へ
10. 処遇方法：年功（経験年数）から年俸（一定期間における実績）へ

これからの熾烈な市場競争の中で成果主義が益々求められていく訳で、その中で本当に必要とされるのはグローバルリテラシーを持つ人材である。

グローバルリテラシーの人材は以下のように要約される。多文化が錯綜するビジネス環境においてもリーダーシップを発揮し、優れた成果（パフォーマンス）を挙げることが出来る能力である。

具体的には4つのカテゴリーで能力を測る訳だが、以下の通りである。

1. 個人的リテラシー　（自分を正しく理解する能力）
2. 社会的リテラシー　（他人に活力を与え鼓舞する能力）
3. ビジネスリテラシー（組織を意思統一する能力）
4. 文化的リテラシー　（文化的相違を活用する能力）

トレンドが変わり、求められる人材像が大きく変化する中で、日本のビジネスの将来に不安を持つ人がいるし、マスコミは不安感を与えているようだが、筆者はむしろ反対の立場に立っている。日本人の民度、民知と同質性を考えると、成果主義が浸透し、真の実力で、人間を評価するシステムが確立していけば（年功、終身、学歴主義の呪縛からの解放－実力、リスクテイキングとチャレンジ、学力での評価）素晴らしい国際競争力を発揮し、日本が再度活性化していくものと確信している。

組織を変え、制度をつくり、システムを構築するのも全て人間である。人間の意識を変革し、態度も習慣も変われば日本人の人生観も変わるわけで、そうすれば日本は必ず国際競争力のある国に浮上すると思う。

～著者プロフィール～

以下は、ご本人に取材して本誌編集担当がまとめたものである。

昭和19年、満州映画協会の写真家だった父のもと、満州の大連で生まれる。

戦後、東京に戻り、昭和43年に上智大学経済学部卒業。在学中、豪州、台湾の大学に短期交換留学したり、AIESEC（国際経済商学学生協会）による米国での企業研修を経験し、「国際的な仕事がしたい」と日商岩井（株）に入社した。西豪州・パースやベルギー・ブリュッセルなど、幼年時代を含めて18年の海外生活を送りながら、鉄鉱石など天然資源の仕事に30年間従事。平成10年、日商岩井を退職し、取締役として現在の会社に入社。

昨年4月より現職。

～企業概要～

当社は昭和50年、日本初の和製サーチファーム（ヘッドハンティング）会社として設立され、昨年で25周年を迎えた。本社は千代田区二番町。14人のコンサルタントが、4つの専門分野（情報・通信、消費材、金融、医療機器）で、年収600～3000万円クラスのエグゼクティブや専門技術者の紹介を行う。トップ・シニアの人材ニーズに創業以来1200人以上の紹介実績を誇る。

大学はどこへゆく-----

新潟大学教育人間科学部
石本正昭（S42経・経）

二十一世紀になって初めて、というと大げさですが，実は卒業後初めて、去る5月27日に開催されたオールソフィアンズ・デーに出席し、経済学部のコーナーに顔を出しました。そこで経鷲会のみなさんと懇談する傍ら、川野会長から“一

筆”を強制（？）され、数十年に及ぶご無沙汰のお詫びのつもりで筆をとりました。
私は経済史の中村宏先生に学部の2年間とそのごの精神的な面でたいへんお世話になりました。残念なことに、先生はこの春、長い療養の末にお亡くなりになりました。伺ってみると，お歳は私の年齢に10歳を越えておらず、まことに痛恨の極みであります。

さて、私は元来、文学部大学院修士から経済学部へ学士入学し、上智には8年間お世話になりました。経済学部ですぐれた友人を得たことは感謝にたえません。当人はどうみてもビジネス向きではありませんでしたので、合格した都庁も辞退し、郷里新潟に戻りました。そのときから35年ほどになりますが、現在は新潟大学教育人間科学部の教員をしております。公務員、とりわけ国立大学教員が天国の身分であった時代はいまや全く過去の夢になりました。大切な入試業務でおそまつなボロを出したり、「独立法人化」の動きも急となり、ひいては地方弱小大学そのものの存続、消滅すら予感されているのが現状です。私自身はあと4年で定年ですので落ち着いていられますが、若い方々はたいへんです。

出身者として誇りをもてるわが上智経済学部と、地方の二・五流の国立大学弱小学部との比較には無理がありますが、私としては後者においても純粋な学問精神への志が脈々と生き、貫かれていることを強調したいのです。地方における学問の場を失うことは、単に、たとえば産学協同の成果を台無しにするだけでなく、日本の将来の精神的存立にとって取り返しのつかない損失になるのではないかと危惧しております。日本の経済界第一線で活躍している上智経済学部OBのみなさんに、あえて、このことを訴えて、拙文を結ばせていただきます。

46歳からの「もう一つの人生」

イー・アソシエイツ株式会社
代表取締役
椎名　照雄（S45経・経）

最近、大学時代のことを振り返るきっかけとなる出来事が三つ連続して起こりました。
一つが、上智のクラスメートだった山田君（UNIDO勤務）がスイスから一時帰国した際、クラスメート数人が久しぶりの再会を果たしたことです。二つ目は、今書いているこの寄稿の依頼を受けたこと、そして、三つ目は上智大に入学して間もないころにキャンパスで出会ったフィリピン人の神父さんと30数年ぶりに音信を再開したことです。

大学一年のときに、なにかのきっかけで四谷キャンパスで知り合ったその神父さん（Fr. Jun）は、2ヶ月ほどの休暇を日本で過ごしているところでした。恐らく英会話の練習になるという程度の理由から、よくFr. Junと四谷のキャンパスで落ち合っては喫茶店に行ったり、コンサートに行ったりしたものです。Fr. Junが帰国して数年は文通が続いていたのですが、その後音信は途絶えていました。

この7月中旬のある日、大阪出張から帰宅すると、妻が「めったにない良い知らせがある」と興奮気味に言います。話を聞いてみると、神戸在住の方から、「フィリピン、バコロド市在住のFr. Junという人から、1966年～1970年の間に上智大学に在籍していたシイナ・テルオという人を探し出してもらいたいと頼まれた。お宅に該当する人はいますか」という電話を頂いたとのこと。
数日後、その方に電話をかけて詳しく伺ったところ、その方は昔からFr. Junの友人で、最近久しぶりにフィリピンで再会し、帰国したばかりとのことでした。現在67歳のFr. Junは一線から退き、昨年肺がんの手術を受けて余命6ヶ月と言われたが、既に手術から1年数ヶ月経過していること、そして35年前に出会った私のことを大変よく覚えていて、是非探し出してほしいと頼まれたとのことでした。

それから約1ヶ月後の今、我々夫婦は8月24日から3泊4日でFr. Junを訪問するための準備をしています。そして、Fr. Junとはこの2週間の間にイーメールや電話などで頻繁にやりとりしています。音信不通だった過去30年があたかも存在しなかったかのようです。つい1ヶ月前まで、今年の夏（いや永遠に）フィリピンに行くなどとは思っていなかったのに、もうバコロド行きの航空券の予約までしているのです。

不思議としか言いようがありませんが、人の一生は、本人が計画したことや努力したことと、本人が全く計画も努力も（予想すらも）しなかったことの総体から成り立っているということを最近強く感じます。
その意味で、私が現在の会社を始めた理由も本来一筋縄ではないのですが、紙幅がなくなってしまいましたので、現在のイー・アソシエイツ(株）立ち上げの詳細については次の機会に譲り、ここでは、ささやかな「動機」の一つ二つを記してみたいと思います。

大学を出て就職した際、私は人生のアクティブな期間の半分はサラリーマン生活をし、後の半分はサラリーマンでない生活をしたいと考えました。サラリーマンという生活形態しか経験せずに一生を終えてしまうのがもったいないという思いからでした。結果からいうと、40歳台半ばをターニングポイントと考え、46歳でサラリーマンを辞めました。

サラリーマン時代は3つの外資系銀行（香港上海銀行、ファースト・インターステート銀行、ウェストパック銀行）と1つのデリバティブ専門会社（AIGファイナンシャル・プロダクト・ジャパン）で働きました。

サラリーマンをやめてからは、金融関連の専門翻訳によって糊口しながら、三枝充悳先生のご好意で先生の日本大学大学院哲学科のゼミナールに参加させてもらいました。翻訳の仕事が予想以上に増え、1997年にアソシエイツ・ジャパンを立ち上げました。
アソシエイツ・ジャパンのもう一つの柱として、リテール・バンキングにおけるデリバリー・チャンネルのコンサルティングを立ち上げました。その後、いくつかの経緯を経て、現在私のやっているインベスター・リレーションズ（IR）の世界に興味が広がり、2000年3月にイー・アソシエイツ（株）の設立にこぎつけます。

IRの説明は省略しますが、2000年11月に一応のサービスを開始し、軌道に乗ったのは2001年3月期決算発表が行われた2001年5月からになります。みずほホールディングス、三菱ファイナンシャル・グループ、三井不動産、TDKなどの大手企業から店頭公開企業、ナスダック上場企業まで幅広い層の企業にサービスをご利用いただいています。私としては、会社を通して、社会的に価値のある事業を展開し、企業としての収益基盤を強化すると共に私の「もう一つの人生」の充実を目指して頑張りたいと思っています。

会費納入にご協力を！
口座番号：00150-8-537559
宛先：上智大学経鶯会

大企業からコンサルタント、そして起業

株式会社グロービス（http://www.globis.co.jp/）
取締役/マネージング・ディレクター
福沢　英弘（S61経・経）

上智大学を卒業して早くも15年がたった。卒業後、所属した企業は現在で3社目である。会社を変わるにつれ企業規模は小さくなり、逆に在籍期間は長くなっている。現在在籍している㈱グロービスは、実質3人で創業してからもう9年である。

概して大企業志向が強い（かつて自分もそうだった）上智大学OBの中では、多少異色の部類に入るのかもしれない。

上智大学を卒業したのが86年、プラザ合意後のいわゆる円高不況の頃だ。滝沢ゼミで国際金融論をかじっていたこともあったが、偏差値教育の延長という感じで都市銀行に入行した。入行してしばらくしてバブルが始まり、何のために働いているのかがわからなくなった。とても人が活かされているとは思えなかった銀行という超保守的な組織にも、疑問を感じた。今思えばお恥ずかしい限りだが、このままでは日本は駄目になってしまう、何とか変えなくてはという気持ちが湧き起こってきた。ただ、当然ながら大それた考えを実行にうつす術を何も持っていない。まず、武器を身につけなければという思いで、2年で銀行を辞め、慶応義塾大学大学院経営管理研究科（慶応ビジネススクール）に入学した。

2年間勉強しMBAを取得した後、経営コンサルティングが日本企業を変革する近道だと考え、コンサルティング・ファームに入社した。3年間コンサルタントとして、経営戦略策定のお手伝いをしたのだが、次第に二つの意味でフラストレーションが溜まるようになってきた。戦略で本当に企業が変わるのか、どんな素晴らしい戦略があってもそれを実行するのはヒトであり、それに自分は貢献できていないのではという点と、所詮コンサルタントはリスクをとっていないという点である。これについては反論もあろうが、とにかくそう思ったのである。

そんな時、ひょんなきっかけで同世代の3人でグロービスという会社を始めた。今も変わらない当時定めた経営ビジョンは、『グロービスは、日本およびアジアにおいて、「ヒト」・「カネ」・「経営ノウハウ」の質の高い環境（ビジネスインフラ）を創造し、ビジネスの創造と変革を目指す。』という壮大なものである。全員、ビジネススクールやコンサルティング・ファームで経営を体系的に学んでいることと、日本の大企業での勤務経験があり、それらを反面教師にできたことが、何も持っていない我々にとって大きな資産だったのかもしれない。

今では当たり前になっているが、創業時から会社のミッション、ビジョンや価値観にはこだわってきた。当時散々議論してまとめたものは、現在も「グロービス・ウェイ」として会社のバイブルとなっている。現在、社員は120人ほどまでに増えたが、採用時にはこの「グロービス・ウェイ」にどこまで共感できるかを最も重要な判断軸としている。また、重要な経営判断を行うときは、常に「グロービス・ウェイ」に立ち返るようにしている。

それから、創業9年を経て思うのは、節目節目で多くの方にサポートしていただけたということだ。まだ30才になるかならないかの若輩者のいうことを真剣に聞き、共感し、サポートしてくれた多くの方々がいた。大企業の幹部クラスにそういう方が多かったのも、少し意外であると同時にありがたかった。我々が、信念をもって謙虚にかつ真正面からぶつかっていったのが良かったのかもしれない。（余計なことを考えるゆとりもなかったというのが本当のところではあるが）

時代は、まさに「変革の時代」である。銀行時代に漠然と考えていたことが、現実に世のあちこちで起きており、また15年前と比べれば人々の意識面の変化も大変なものだ。リスクはあるものの、チャンスも大きい。

（自分が属している）企業はなぜ存在しているのか、自分は何のために生きているのかを常に意識していきながら、自分自身も組織もともに成長していきたいと考えている。

トピックス

「第2回オールソフィアンズ囲碁大会」開催のお知らせ

主催：上智大学経鷲会　　後援：日本棋院
大会名誉会長：利光松男氏(日本棋院理事長、S22経経)
日時：2001年12月1日(土)　10時～18時
会場：日本棋院(市ケ谷) 三階Aホール　TEL：03-3288-8729
参加費：7000円(賞品代、昼食、パーティ代含む)
段位別ソフィア名人戦、本因坊戦、碁鷲戦のほか、級位者向けお楽しみ対局もあります。女性、初心者の参加も大歓迎です。
参加申込方法：11月20日締め切り。氏名・卒年学部・棋力・連絡先（住所、電話番号）を明記の上、下記宛てご連絡ください。
事務局：古屋　毅（S32.：経商）
Tel/Fax　048-853-8238
E-mail　t-frykdi@viora.ocn.ne.jp

経鷲会サロン－納涼の夕べ

経鷲会主催の8月の経鷲会サロン（毎月第二水曜日開催）は、夏期休暇でソフィアンズ・クラブが閉鎖されていることもあり、毎年恒例の外部会場での開催となった。

本年は、前回の“エコノミアン”にてご紹介した木下和子さん（昭53経営卒）の経営する南仏料理の“ラフェ・クレール”におじゃました。大崎駅のうえに聳える“ゲートシティ大崎”の一角にあり、ビルの谷間につくられたヨーロッパの美しい街並みや中庭に面した南欧ムードの漂うフレンチ・レストラン、美人のマダム、南仏での厳しい修行をつんだ若いシェフ、ソムリエ、天然魚のソテー、和牛のステーキ、吟味されたワイン等々ビジネスに、同期の集いに、デートに、結婚披露宴に、ご利用をおすすめします。

今回の納涼の夕べには、昭32年卒の先輩から、昭57年卒の若手まで14名の参加に加え、美人マダムも終始同席、約3時間の集いがあっという間に過ぎて行った。

ソフィアンには特別割引料金があります。一度ご賞味ください。（TEL 5437－5550）

また、毎月第二水曜日18時からソフィアンズ・クラブで「サロン」を開催しておりますのでお友達をお誘いの上ご気軽にお集まり下さい。

（昭38経経卒　遠藤 千朗 記）